

# きたろう

登録番号：第8222号	芳記 増田哲男 別所英男
登録年月日：平成12年7月31日	小森貞男 伊藤祐司 阿部
登録者：農林水産省果樹試験場（茨城県 つくば市藤本2番1）	和幸 古藤田信博
育成者：吉田義雄 土屋七郎 副島淳一	来歴：「ふじ」と「はつあき」の 交雑実生
羽生田忠敬 真田哲朗 櫻村	育成地：岩手県盛岡市鍋屋敷92

## 特性

### ■栽培特性

樹勢および樹の大きさは中程度で樹姿は開張性である。短果枝の発生は中であるが頂花芽の着生は良、腋花芽の着生は多い。発芽期および開花期は晩で、育成地では「ふじ」より4日ほど遅れて開花する。S遺伝子型はS<sub>3</sub>S<sub>9</sub>で「はつあき」および「世界一」とは交雑不和合を示すが、「ふじ」等の主要経済品種とは和合性である。ただし、開花期が遅いため、「ふじ」や「つがる」の授粉樹としては利用できない。早期生理落果は認められていない。育成地における果実の成熟期は10月中旬で、「千秋」より約1週間程度遅れる中生種である。収穫前の落果はやや多い。

### ■果実特性

果実の大きさは中、果重は250～270g程度で、管理をよくすれば300g以上の果実が得られる。形状は扁円形で、中程度の王冠が見られる。こうあの広さは広く、深さは中で、がくも広くて中程度の深さを呈し、がくが開いている。地色は黄色、果皮色も黄色で、通常の種類では黄りんごの範疇に入るが、陽光面はごく淡い赤で被われる。年によって果面の着色の割合は異なり、寒冷地ほどその比率が高くなる傾向が見られる。果点の大きさおよび密度は中であるが、比較的目立つ。さびは全面に見られるが、特にながく周辺の果頂部に多く、年によってはかなり目立つことがある。また、年によってこうあ部に裂果の生ずることがある。

果肉の色は黄色で、切り口の褐色化はやや強い方に属する。肉質は硬くきめはやや粗、蜜入りの多少は少、渋みはなく、香気は少ない。屈折糖度計の示度は15度程度で甘みが強く、酸味は中位で果汁が多く、食味は極めて優れている。

普通冷蔵による貯蔵性は比較的長い。

### ■病虫害抵抗性および栽培上の留意点

主要病害の中で、斑点落葉病に対しては抵抗性であるが、黒星病には罹病性である。比較的さびの発生しやすい品種であり、とりわけ花頂部で目立つことから、幼果期に発生が多い果実は摘除したほうが良い。

収穫前の落果が多いため、落果防止剤の散布が望ましい。

大玉生産をねらった場合、こうあ部の裂果が多くなる傾向があるため、食味の優れる中玉果の生産に努めるとともに、過熱にならないように適期に収穫する必要がある。

### ■地域適応性

本品種は、その特性から見て北海道から東北中北部での栽培に適するものと考えられる。さらに、これらの地域で生産された果実は貯蔵力に優れていることから、貯蔵りんごとしての利用も可能である。特に北海道では無袋栽培で果色が美しいピンクとなることから、外観優良な高品質品種として普及が期待される。

(副島淳一)